

胆振農業改良普及センターの普及活動方針

胆振管内は北海道の中南部に位置し、気象は積雪が少なく、春の訪れが早く、夏は比較的涼しく、秋は好天の日が多い。気象的には農業生産には恵まれた地域である。

農業構造として、耕地面積は 35,000ha 前後で推移し、農家戸数は 1,785 戸(2015)で減少傾向、平均年令は 60.3 歳と高齢化が進んでいる。

本所区域(登別市から西側の 3 市 3 町)は、道内有数の野菜産地で、数多くの品目が栽培されているほか、高級菜豆をはじめとする畑作、りんご等の果樹、酪農、肉用牛、養鶏、養豚などの畜産が盛んである。東胆振支所区域(白老町から東側の 1 市 4 町)は、稲作、野菜や花きなどの園芸のほか、酪農、肉用牛、養鶏などの畜産、さらに軽種馬の生産地でもある。「北海道でとれて胆振でとれない農畜産物はない!」と言われている。全道平均より経営規模は小さいものの、耕種、畜産など多様な経営が展開されている。

農業・農村を取り巻く環境は、国際貿易交渉の進展に伴い一層のグローバル化に加え、農業従事者の減少や高齢化の進行、異常気象の発生、過疎化による集落機能の低下など様々な課題を抱えている。

普及センターでは、平成 28 年度から「第 5 期農業・農村振興推進計画」の施策を踏まえ、知恵と工夫で未来を拓く胆振農業の発展を目指して、農業者の意向をくみ、地域の優れた潜在力を発揮できる現場重視の提案・実証型の普及活動を展開する。

活動にあたっては、総合振興局、市町村、JA、関係団体と連携しながら、役割分担を明確にし、成果の共有化と地域への波及を進めていく。

1 基本的な課題

(1) 地域農業を支える多様な担い手の育成

農家戸数の減少や高齢化が進み、地域農業を維持するため、多様な担い手の確保と育成が緊急の課題である。また、青年農業者の生産技術や経営改善能力の向上、女性農業者や高齢者が活躍できる場づくり、家族経営体を支える支援システムづくりが必要である。

- ア 新規就農者の確保、就農定着、育成への支援
- イ 青年農業者の組織活動と栽培技術・経営管理手法習得の支援
- ウ 女性農業者の組織活動と能力をいかした活動への支援
- エ 指導農業士・農業士会の活動支援と担い手育成のための連携
- オ 地域における農作業支援組織、法人化の推進

(2) 多様化する食市場に対応した生産力の強化

近年、異常気象の発生により生産が不安定となっている。一方では、食の安全・安心への関心が高まっている。農業経営を安定させるため、気象に応じた適期管理、作物・作型の組み合わせによるリスク分散、消費者・需要者のニーズに応じた農畜産物生産、安全・安心への取組、コスト低減、省力化技術の導入、ICT 等の先端技術の活用を進める。

- ア ニーズに応じた良質な農畜産物の安定生産への支援
- イ ICT等を活用した先端技術導入に向けた支援
- ウ 根拠のある安全・安心な農畜産物生産の推進
- エ 地域資源の有効活用と循環型農業の推進
- オ 気象災害に対応した迅速な情報収集と技術情報の提供

(3) 高付加価値を創出する農業・農村づくり

管内には道内有数の温泉や観光地があり、特色ある農産物、直売所、観光農園、加工販売

など地域資源を活かした高付加価値化の取組みがある。特色ある農畜産物・加工品のブランド化、農家が行う加工・販売、農商工連携による商品開発、アグリビジネスの振興などの6次産業化と地域に人がくる活気と魅力ある農村づくりを進める。

ア 地域特性を活かした付加価値の高い農畜産物づくりの支援

イ 観光と連携した地域食材の活用、消費者と結びつける取組みへの支援

ウ 自然環境、農村景観など多面的機能を活かした農業生産と農村づくりへの支援

エ 環境保全型農業、有機農業ネットワーク活動、適正な農業生産工程管理の推進

オ 都市と農村の交流等による地域活性化の推進

2 普及活動の方法

(1) 地域系の活動

3つの地域系は、地区の農業者を対象とした重点課題と生産組織や青年組織などの農業者を対象とした一般課題を設定する。対象農家、関係機関との合意のもと、農家自らが取り組む目標の達成に向けて、市町村、JA、総合振興局との連携のもと地域の課題解決を進め、生産振興対策と農村振興対策での成果を地域へ波及していく。

(2) 広域班の活動

広域班は、主任普及指導員（農業革新支援専門員）2名と「担い手」「情報・クリーン・有機」「高付加価値化」の主査を本所に配置。これらは各地域共通の課題であり、地域系、総合振興局と連携した推進事項を設定し、活動を展開する。

3 地域関係機関、総合振興局、試験研究との連携

(1) 地域の農業振興や農業者のニーズを反映した普及課題を設定し、JA、市町村、関係団体と連携し、合意形成と役割分担により普及活動を展開する。

(2) 地域の課題解決のため、農業施策を踏まえ、総合振興局と連携した活動を進める。

(3) 地域農業技術支援会議で、地域の課題を集約し、総合振興局、試験研究、普及センター連携のもと、課題解決に向けて迅速に取り組む。

4 資質向上と調査研究

農業者の高度かつ多様なニーズに対応するため、OJT、職場研修、専門活動での資質向上に努める。また、横断的な地域課題解決研修や課題解決のための調査研究を行う。